

「美唄市食育推進計画」に関するパブリック・コメントの結果について

1. 計画の概要

本市が農村地域であるという特性を活かした食育推進の基本的な考え方を示すとともに、市民みんなで取り組むための指針として位置づけたもの。

2. パブリック・コメント

(1) 実施期間 平成22年3月1日～平成22年3月31日

(2) 実施結果・件数 4名・6件

3. パブリック・コメントに係る項目別意見等

項目	意見数
1. 食育推進に関する啓発・広報活動	3件
2. その他	3件

4. パブリック・コメントに係る修正事項

市民からの意見による本計画(案)の内容修正はありません。

5. 主な意見と市の考え方

区分	意見の要旨	市の考え方
1. 食育推進に関する啓発・広報活動	食育を充実させていくため、目標を老若男女にも分かりやすいものとし、活動組織のネットワーク化や市民のボランティア参加も必要ではないか。	食育は、知識だけではなく、体験を交えながら推進し、官民一体となった市民運動的な展開が必要という観点で計画づくりに取り組んできました。 本計画の推進にあたっては、各団体が行う食育に関わるイベント(事業)を取りまとめた「食育イベントカレンダー」を作成し、相互に連携が可能となるよう努めます。また、食育の活動を展開している関係団体等により「美唄市市民食育推進会議(仮称)」を組織し、広く市民運動として交流の輪を広げていきたいと考えています。
	案の内容は賛成だが、広報活動はどのように考えているか。 イベントの紹介は、メロディだけではなく、ポスターを小学校低学年より募集して、商業施設や商店街、協力を頂ける方の住宅などに掲示してはどうか。 また、市民に理解を求め、市民の参加を促すため、イベントの計画を立てる都度、町内会班内回覧用の広報紙を作成してはどうか。	また、食育の目標や食育イベントの周知方法については、各団体の広報紙やポータルサイト「PiPa」によりお知らせするなど、市民組織の構成団体等と連携し、取り組んで参りたいと考えています。
	ボラバイト(ボランティアアルバイト)やボランティアで農業体験をすることによって、食の大切さを理解するなど食育につながると思うので、農業を支援している団体などがボラバイトやボランティアの紹介もしてはどうか。	今のところ、本市でボラバイト(ボランティアアルバイト)やボランティアなどで、農業を支援している団体は承知していませんが、今後、各団体などと連携を図る中で、その必要性を含め、検討して参りたいと考えています。
	食に関するイベントの回数を多くしてはどうか。 また、即売会だけではなく、食の流れをパネルにして紹介するなどの活動も必要ではないか。	食に関するイベントについては、各団体が行う食育に関わるイベントを取りまとめた「食育イベントカレンダー」を作成して、相互に連携して取り組む中で、回数・内容等について検討して参りたいと考えています。また、食の流れを紹介しているイベントもありますので、今後、そうした活動を展開している団体等と連携を図って参りたいと考えています。

2. その他	<p>計画（案）は、とてもよく集約されており関心した。</p>	<p>本市の食育が広く市民運動として展開していけるよう、本計画（案）の推進に努めて参ります。</p>
	<p>委員会には17名の委員のうち、10名前後しか集まれなかったが、立派な推進計画（案）ができたことは、本当にうれしい。</p>	
	<p>失われた食文化の再生のために取り組んできた食育活動も一応定着しつつある昨今、時代に適応した新しい課題に目を向けることも大切である。各団体がそれぞれ連携して、情報の発信、交換に務めることにより食育活動は活性化し、単体だけではできない大きな力となり、次世代への食文化の継承にもつながっていくことになる。思いきった取り組みを歓迎します。</p>	

提出意見の内容

(「美唄市食育推進計画」(案)に関するパブリック・コメント)

・意見提出人数 4名(提出者ごとの意見は次の【1】から【4】のとおり)

【1】

- ・ 案に対しては可ですが、広報活動はどのように考えているのか。
- ・ 食に関するイベントの回数を多くしてはどうか。
- ・ 即売会ばかりではなく、食の流れをパネルにして紹介するなどの活動も必要ではないか。
- ・ イベントの紹介は、メロディばかりではなく、商業施設や商店街、協力を頂ける方の住宅などに掲示するポスターを小学校低学年より募集して、上手・下手に関係なく全員採用してノート1冊の賞品を渡してはどうか。
- ・ 市民に理解を求め、市民の参加を促すため、イベントの計画を立てる都度、町内会に対して班内回覧用の広報紙を作成してはどうか。
- ・ ボラバイト(ボランティアアルバイト)やボランティアなどで農業を支援している団体などの紹介もしてはどうか(ボラバイトやボランティアで農業体験をすることによって、食の大切さを理解するなど食育につながると思う)。

【2】

- ・ 推進計画(案)に目を通し、とてもよく集約され関心させられました。これらを踏まえて今後、美唄として食育を充実させていくには、目標を老若男女にも分かりやすいところに置き、それらを実行していくには、ネットワークを作り、市民のボランティアも必要ではないかと思います。

【3】

- ・ 17名の委員のうち、各委員会には10名前後しか集まれませんでした。このように立派な計画(案)ができたことは、本当にうれしいです。事務局のご努力の賜物ではないでしょうか。本当にご苦労様でした。私の感想ですが、自分の持ち分をそれぞれの人がかかってに発表していたように思います。みんな個性が強かったのではないのでしょうか。

【4】

- ・ 失われた食文化の再生のために取り組んできた食育活動も一応定着しつつある昨今、時代に適応した新しい課題に目を向けることも大切と考えます。各団体がそれぞれ連携し、情報の発信、交換に務めることにより活性化され、単協だけではできない大きな力となり、次世代への食文化の継承にもつながっていくことになるでしょう。思いきった取り組みを歓迎します。